



## 大阪市下水道科学館と津波高潮ステーション見学

- 1 : 日 時 2024年7月25日(木) 10時20分  
2 : 集 合 阪神本線 淀川駅  
3 : 参加人数 17名

**10:30** 大阪市下水道科学館。パンフレットと「マンホールふたスタンプを集めよう！」を受け取り、映像にて概要の説明をうける。6Fにて記念撮影後館内自由見学。  
下水の定義：汚水+雨水、日本では1人が1日に出す汚水は200Lから250L。  
下水道の歴史：ロンドンテムズ川の悪臭と伝染病（コレラ）のため1858年にバズルゲットが下水道システムに着手したのが始まり。日本では昭和45年に下水道法制定  
下水道の現在：工法の進歩、浄化方法の改善が進んでいるが、新たな課題としてシステムの劣化、巨大地震への対策、過去に経験したことのない豪雨時に発生する大量の下水処理があげられる。  
皆さん来場の子供たちに負けずスタンプ押し完了されたようでした。

**12:00** 出発 来た道を帰り、阪神電車と大阪メトロ（千日前線）で阿波座へ  
昼食を大阪あわぎ大食堂でそろって食べたのち

**13:30** 津波高潮ステーション玄関集合。全員でガイダンスのビデオ視聴。その後2班に分かれて①津波展示説明→ダイナキューブシアターへ。②ダイナキューブシアターから開始し展示を見ながら津波の説明をうける  
津波：地震や、海底火山の噴火による海底の大きな地殻変動などによって生じる非常に波長の長い海水の波  
高潮：海面が上昇する現象で、台風や、強烈に発達した低気圧が原因で起こる波  
映像：ダイナキューブシアターにて、大阪に強い地震のあと津波が来たという想定下津波の疑似体験（結構迫力がありました）

因みに令和6年1月1日の政府発表によると、南海トラフの地震発生予想は30年以内に70~80%となっています。（ほんまかいな？）

#大阪の街は海面下に多く存在し、大阪市の人口270万のうち100万が海面下に住んでいると言われてます。そのため高潮には悩まされてきました。

実際高潮は台風21号（2018年9月4日、平成30年）で過去最大で5.1mにも達していましたが防潮堤や防潮扉によって守られ被害はでなかったそうです。

現在大阪湾の防潮堤の長さは230 kmにもおよび、586の防潮扉とさらに水門とともに高潮への備えとなっています。

大阪には世界でも見られない、アーチ型をしている独特の水門があるが、これは平常時に船が航行できるようにと考えて作られたもので如何にも水都大阪らしい。

3大水門は、安治川、尻無川、木津川にあり、現在木津川に新水門建設中です。

#### 15:00 津波高潮ステーションにて解散

今回は大阪府下の状況でしたが、皆様のお住まいの地域、地形などによって災害の形も対策も変わってくると思います。さらに大阪の状況にしても、最近の異常気象による災害の大きさを考慮すると万全ではありません。施設の老朽化も待ったなしで迫ってきます。他人事ではなく、自分のこととして、自分の身は自分で守ることが大事だと感じました。

写真；秦さん      文責；倭

